
成人保健看護

報告者：赤嶺 伊都子

教育及び実践の課題

成人保健看護の講義、演習および実習における課題として以下の3点がある。

1. 成人保健看護では、緩和ケア教育に関しては、成人保健看護方法Ⅲ（旧カリキュラム科目：以下旧カリと略す）で講義しており、成人保健看護実習Ⅱ、Ⅲ（旧カリ科目）において緩和ケアに関して学ぶ機会があった。緩和ケア教育研修（The End-of-Life Nursing Education Consortium：ELNEC）の教育構成要素はこれらの講義・実習に含まれるが、**倫理的な問題に関して講義を行っていない**。
2. 実習において受け持ち患者との死別を経験した学生は死別に対する知識不足や対処能力の弱さから悲嘆が大きい可能性がある。しかし、個別の振り返りや実習期間中・後を含めた**継続的な支援体制がない**。
3. 教員同士で死別を体験した学生の事例カンファレンスを行い、**教育力(指導力)向上に努める機会をもっていない**。

活用した論文の概要

Wenzel ら(2011)の研究では、オンコロジーナース34名を対象に、フォーカス・グループ討議を行い、患者の喪失のコーピングを促進する要因と障害となる要因：「仕事に関連した喪失」と「死別への折り合いについての側面」の2つの主題が抽出されており、協力的・支持的な介入の構成要素を明らかにしている。支持的なセルフケア環境など創造的な具体策の提案が挙げられている。仕事に関連した死別の対処法として研修への参加が最も多い方法であったが、30%しか研修を受けておらず、緩和ケア教育研修(ELNEC)では17%しか受講していなかった。

職場での看護師の死別に関する対処法についての教育の不足が考えられ、がん看護に携わる看護師の死別に対する対処能力の向上に向けて教育的介入に重点をおく必要がある。

教育及び実践への活用

緩和ケア教育研修(ELNEC)の教育構成要素（痛みのマネジメントや悲嘆など）は、これまでの講義・実習に含まれるが、倫理的な問題については含まれていなかったため、平成25年度より新カリキュラム科目であるクリティカル・緩和ケア論の講義の1コマに「終末期における倫理的問題」を取り入れた。がん看護専門看護師をゲストスピーカーとして招き、臨床現場における事例を中心とした倫理的問題について講義をしてもらった。また、次年度前期に予定されているクリティカル・緩和ケア演習（4年次前期）の演習内容への活用の可能性を検討予定である。さらに、実習にて受け持ち患者との死別を経験した学生に対して、個別の振り返りや実習期間中・後を含めた継続的な支援体制を今後検討する。

参考文献

Wenzel J, Shaha M, Klimmek R, Krumm S (2011) : Working Through Grief and Loss: Oncology Nurses' Perspectives on Professional Bereavement, Oncology Nursing Forum 38(4), 272-282.
